



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2018.10

No. 415

日本野鳥の会 埼玉

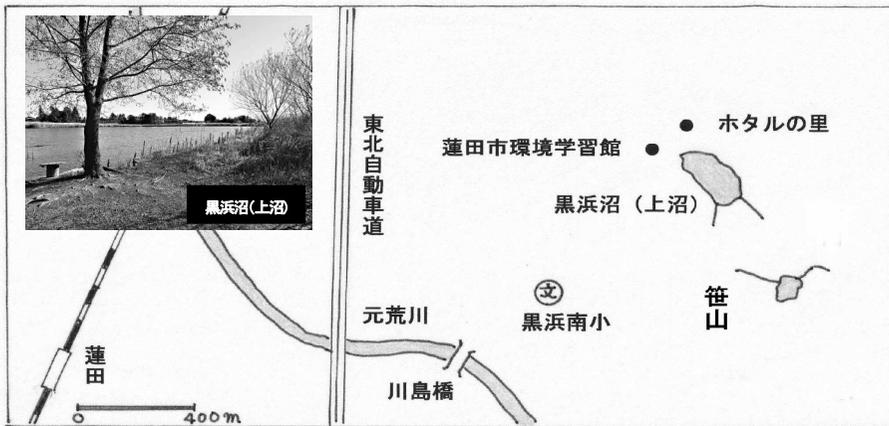
S H I R A K O B A T O



マイ・フィールド黒浜沼 そして野鳥たち

田中 幸男 (蓮田市)

マイ・フィールド黒浜沼、ここでの案内は、諸先輩が既に当誌で紹介しております。今回は、私の自転車探鳥コースに沿って、途中のポイントを含め、黒浜沼周辺の冬を中心に、探鳥ポイントを紹介させていただきます。



● 蓮田駅近くの自宅から黒浜沼への途中にある元荒川がまず探鳥ポイント。うなぎ「魚庄」前の下水が川に注ぐ排水口では、イソシギとセキレイ類が。時折キセキレイも。その後は、川の中ほどの杭にとまるカワウを確認。

そこから川島橋にかけての左手の元荒川には、カルガモ、マガモ、コガモ、ヒドリガモなどが水面に、イカルチドリ、コサギが干潟に、セグロカモメが川に沿って飛ぶことも。

そして岸のヨシ原のホオジロ、アオジ、カワセミを確認。

● 初夏から秋までは、川島橋を渡ってすぐ右折し田んぼを通り黒浜沼へ向かい、シギ・チとコアジサシをねらい、その後はダイサギ、コサギ、チュウサギ、アマサギ、アオサギ、ゴイサギなどのサギを。

ここでの冬は、ヒバリ、タヒバリ、カワラヒワ。そしてタゲリだが…。

ここしばらく、初夏のムナグロや冬のタゲリが激減、年によっては観察できないこともあり、環境変化を懸念せざるを得ない。

またこの上空にはチョウゲンボウが、そして最近はやブサがときどき現れてくれる。

● 冬は川島橋を渡り直進、黒浜南小を右折し、沼に向かう。その前に笹山の周辺に立寄

る。この9月は何といってもサシバだ！ 北方向から来るもの、付近の森から飛び立つものの、数時間で結構楽しませてくれる。

冬はオオタカやノスリが木に止っていることや飛んでいることがある。

この区域のヨシ原は黒浜沼(上沼)周辺ほどではないが、カシラダカ、アオジ、ホオジロが行き交ってくれる。

● 沼への道の畑でジョウビタキを見ながら、左に折れると、いよいよ黒浜沼(上沼)だ。モズの出迎えをうけ、沼を観察。

まず、カモの仲間を探す。カルガモ、コガモ、マガモが常連。そしてオナガガモ、ハシビロガモが続き、キンクロハジロ、ホシハジロなどがときどき立寄ってくれる。オオバンは水面で、クイナはヨシ原の中からは声を、沼の縁では姿を確認することができる。杭にはカワウが、干潟にはイカルチドリ、セグロセキレイ、タシギなどが…。やはりここでの中心はこの沼だ。

● 黒浜沼周辺のヨシ原では、人気のキジが顔を出してくれ、ホオジロ、オオジュリン、カシラダカ、アオジの数は多い。

最近はやニマシコ(右ページの上)の飛来が増えている。ヨシ原の低木は、アリスイのボ

イントだが、見つけるのには苦労する。渡ってきたばかりのアリスイは、結構鳴いてくれ、その行方を追いやすい。

目線ばかりでなく、ときどき上空を見上げよう、オオタカが青空を舞っている。

● コース最後はホタルの里だ。蓮の田んぼではカワセミを見る確立が高い。2羽見ることもあり、夏は若鳥も見られ、近くで繁殖しているようだ。冬はクイナの声がし、ときどき姿も見せてくれる。

● 沼近くの蓮田市環境学習館で一休みして、別の探鳥ポイント、東方向にある江ヶ崎の森や田んぼ、または北方向にある東埼玉病院周辺へまわることもある。

黒浜沼周辺において諸先輩と私自身でこれまで確認した野鳥たちは147種である。その内、環境学習館主催のバードウォッチング講



座166講座(1994年10月~2017年12月)で記録された野鳥たちは103種である。その記録から、年間出現率を下の表に示した。

※ホタルの里で生息するメダカやホタルは、この土地にもともと生息していたもので、ここには野鳥たちも集まってきている。それらの復活と繁殖は「NPO 法人黒浜沼周辺の自然を大切にす会」や「トラスト11号地の会」の方々の努力の成果である。

	鳥種	出現回数	出現率
1	スズメ	166	100%
2	キジバト	165	99%
3	ハシボコカラス	165	99%
4	ハシボソカラス	164	99%
5	カイツブリ	163	98%
6	ヒヨドリ	159	96%
7	ムクドリ	156	94%
8	カルガモ	149	90%
9	シジュウカラ	143	86%
10	モズ	133	80%
11	ハウセキレイ	131	79%
12	カワラヒワ	131	79%
13	ホオジロ	113	68%
14	カワウ	112	67%
15	アオサギ	105	63%
16	キジ	100	60%
17	カワセミ	93	56%
18	コガモ	91	55%
19	メジロ	87	52%
20	ウグイス	86	52%
21	ダイサギ	85	51%
22	ツグミ	85	51%
23	ツバメ	84	51%
24	オオバン	78	47%
25	コゲラ	74	45%
26	アオジ	74	45%
27	セグロセキレイ	72	43%
28	シメ	68	41%
29	カシラダカ	61	37%
30	オナガ	60	36%
31	バン	59	36%
32	ジョウビタキ	58	35%
33	オオタカ	57	34%
34	コサギ	54	33%
35	オオジュリン	50	30%

	鳥種	出現回数	出現率
36	セッカ	48	29%
37	オオヨシキリ	47	28%
38	マガモ	46	28%
39	チュウサギ	44	27%
40	コジュケイ	40	24%
41	ゴイサギ	39	23%
42	チョウゲンボウ	38	23%
43	カケス	37	22%
44	タシギ	26	16%
45	ヒバリ	23	14%
46	クイナ	22	13%
47	サンバ	16	10%
48	タヒバリ	15	9%
49	コチドリ	14	8%
50	コアジサシ	14	8%
51	アカゲラ	14	8%
52	ベニマシコ	13	8%
53	アリスイ	12	7%
54	コムクドリ	12	7%
55	ノスリ	10	6%
56	タゲリ	9	5%
57	ショウドウツバメ	9	5%
58	アマサギ	8	5%
59	ハイタカ	8	5%
60	イカルチドリ	8	5%
61	オナガガモ	7	4%
62	ハンビロガモ	7	4%
63	アカハラ	7	4%
64	トビ	6	4%
65	シロハラ	6	4%
66	ノビタキ	5	3%
67	ヒガラ	5	3%
68	オカヨシガモ	4	2%
69	ムナグロ	4	2%
70	オシドリ	3	2%

	鳥種	出現回数	出現率
71	ヒドリガモ	3	2%
72	イソシギ	3	2%
73	ルリビタキ	3	2%
74	ミヤマカラス	3	2%
75	ホシハジロ	2	1%
76	キンクロハジロ	2	1%
77	ハチクマ	2	1%
78	ツミ	2	1%
79	ハヤブサ	2	1%
80	アオゲラ	2	1%
81	キセキレイ	2	1%
82	ビンズイ	2	1%
83	エゾビタキ	2	1%
84	ウソ	2	1%
85	ハジロカイツブリ	1	1%
86	カムムリカイツブリ	1	1%
87	ヨシゴイ	1	1%
88	スズガモ	1	1%
89	ミサゴ	1	1%
90	タマシギ	1	1%
91	キアシシギ	1	1%
92	シラコバト	1	1%
93	カッコウ	1	1%
94	ヒメアマツバメ	1	1%
95	アマツバメ	1	1%
96	コシアカツバメ	1	1%
97	イワツバメ	1	1%
98	クイタダキ	1	1%
99	エナガ	1	1%
100	ヤマガラ	1	1%
101	ホオアカ	1	1%
102	アトリ	1	1%
103	マヒワ	1	1%

2017年初認

2017年初認

2017年初認

編集部のメールアドレスを変更します

長年にわたって利用していただいた「編集部への原稿」と「編集部への野鳥情報」のメールアドレスを変更することにいたしました。新しいメールアドレスは、

「編集部への原稿」は yamabezuku@wbsj-saitama.org

「編集部への野鳥情報」は toridayori@wbsj-saitama.org

です。いずれも@以下だけの変更です。

なお、本年9月末までは新・旧のメールアドレスとも有効、10月から新しいメールアドレスのみ有効となります。よろしくお願いいたします。

皆さまの投稿をお待ちしています

今回は特集ページの書き方について、前月号の特集を例にしてご説明します。

題 自由です。迷ったら、原稿を書き終わってから、キーワードを題にするのがお勧めです。

例：「松伏記念公園付近の野鳥観察記録」、
「私の野鳥観察日記」など

表・地図・写真等 最初に用意するとその後の作業がスムーズにいきます。これらは文字よりも物事を雄弁に語ってくれ、読み手の理解を深めてくれます。

表→観察できた鳥種を季節ごとに分ける方法がお勧めです。自分の過去の記録と照らし合わせて作ってください。手書きで結構です。探鳥会のデータが必要ななら編集部で作成し、お渡しできます。

地図→公園が出している地図を参照しながら執筆者自作のものがいいです。難しいようであれば編集部で作成します。

写真→景観の写真が欲しいところです。鳥の写真は編集部で用意できそうです。

また、自作のイラストも大歓迎です。

文章を書く 用意した表・地図・写真等を見ながら、3つか4つの小見出しに分けて書く内容が頭の中で整理できます。例えば、

1, ○○○○○

- ・野鳥観察を始めたわけ、きっかけなど
- ・観察している場所の紹介など

2, ○○○○○

- ・わかったこと、驚いたこと、面白かったこと、印象に残っていることなど
- ・出現した鳥のリストの説明など

3, ○○○○○

- ・まとめ
- ・今後見たい鳥 など

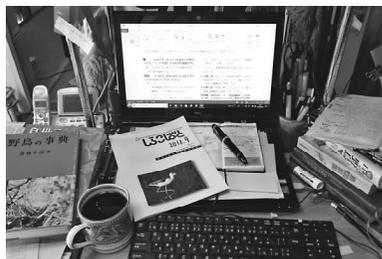
文字数 特集ページ (P2,3) を全部文字で埋めると3,200文字程度の分量です。そこから、表・地図・写真等のスペースを差し引くと2,400字程度が目安です。少し多めのほうが助かります。

例えば小見出し「1」では、500字程度、「2」では1400字程度、「3」では500字程度が目安になります。

その他 割り付け、ページの段組み、1行の文字数、文字のポイント等は、編集部で調整します。

普段通りの原稿の書き方でお願いします。もちろん原稿や資料は手書きで結構ですが、電子データ（新メールアドレスあて）でいただくとか除修正や連絡、さらには掲載までの編集部での相談・見直し等々の段階が手早く進行できます。

『しらこぼと』は、全会員で作るものです。皆さまの投稿をお待ちしています。



ただいま編集作業中！



野鳥情報

上尾市平方 ◇5月24日、丸山公園近くでオオルリとキビタキの声を確認。5月26日、丸山公園自然学習館側でオオルリ、アカゲラ（村越百合子）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇6月3日、水田でケリ成鳥2羽、畔の草の中にヒナ2羽を確認。成鳥はカラスを追い払っていた。カメラマン含めバーダー7人程来ていた。6月8日、ケリ成鳥3羽。時間がなくてヒナは確認できず（鈴木紀雄）。

さいたま市浦和区木崎3丁目 ◇6月7日、見沼代用水の斜面林で「ピオッピオッピョピョピョピョ…」と尻下がりにピッチを上げて鳴く声があるので、探したところツミ♂だった。オナガのモビングを受けて、やがて飛び去った（鈴木紀雄）。

春日部市倉常 ◇6月8日、電線にとまるチョウゲンボウ♂に対してツバメ2羽がしきりにモビング。7月16日、水のたまった休耕田でクサシギ2羽、イソシギ2羽、コチドリ30羽+、アオサギ20羽、ダイサギ、チュウサギ、カルガモ20羽など（鈴木紀雄）。

上尾市地頭方～平方領領家 ◇6月17日午前6時20分頃、犬の散歩中、キジ番い、幼鳥2羽、カルガモ10羽、コチドリ、オナガ16羽、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒバリ、コゲラ、オオヨシキリ、ヒヨドリ、メジロ、カワセミ。上空にアオサギ、オオタカ？2羽など（村越百合子）。

越谷市健康福祉村 ◇6月17日、ササゴイが池のほとりからヨシ原内へ飛翔して逃げ込む。動きが敏捷。ツバメ巣立ち雛が池の周りの杭にとまり、近づいてもなかなか逃げず。ハシボソガラスの巣立ったばかりの雛が脇にうぶ毛をつけたまま、たどたどしい飛行。ムクドリの巣立ち雛が親鳥に餌ねだり。親鳥が餌を口にすると猛ダッシュ！ 池にコアジサシ3羽飛翔（鈴木紀雄）。

蓮田市関戸 N36.0029 E139.6384 ◇6月22日、朝の散歩で久しぶりにアマサギを見た（関口明宏）。

伊奈町小室 N36.0029 E139.6384 ◇6月25日、ハヤブサ1羽、田んぼの鉄塔にとまっていた（下写真）。6月27日午前7時頃、今朝も同じ鉄塔にいた。今朝はキジバトに襲いかかるシーンを見ることができた。キジバトは捕らえ損ねたが、襲撃するときのスピードが物凄いでびっくりした（関口明宏）。



上尾市地頭方 ◇6月22日、ムクドリ18羽とカワラヒワ13羽がブルーベリーの青くなっていた実を食べていた（村越百合子）。

越谷市中島 ◇6月25日午前11時15分、アオサギ1番いの繁殖を確認する。ここは、以前からコサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギ、ゴイサギのコロニーであったが、今年度よりアオサギも仲間入りした（下写真）。6月26日午前9時30分、昨日のアオサギ以外に4番いの繁殖を確認する。これで5番いの繁殖を確認した（山部直喜）。



蓮田市黒浜沼 ◇7月6日、上沼でカイツブリ成鳥1羽+若鳥2羽、成鳥2羽+雛2羽、若鳥1羽。3家族か？（鈴木紀雄）。◇7月30日、ヨシ原でウグイスが囀っていた。体色の薄いモズ♂がいた（次ページ左上写真）。色の濃いカワラヒワがいた。ホオジロが梢で囀っていた。他に、ツバメ、ヒヨ

ドリ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（長嶋宏之）。



蓮田市西城沼公園周辺 ◇7月10日、スズメ30羽土がソバ畑に飛び込み、ソバの実を食べていた。スズメ41羽、電線に並んだ。巣立ったツバメが4羽、電線に並んで親が来るのを待っていた。7月11日、カワセミ♂が沼の縁の杭からダイビング。失敗だった。ムクドリ100羽土が芝生で採餌。7月22日、暑さに耐えかねて、ハシボソガラスの幼鳥が2羽、桜の樹で口を大きく開けて、喘いでいた。7月30日、休耕畑にコチドリが2羽。餌を探して歩いていた（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇7月16日、シジュウカラ若鳥、エナガ若鳥とコゲラ1羽計10羽十の混群。ブッシュ内を動き回る。ホオジロ♂1羽。元荒川で久しぶりのカイツブリ1羽（鈴木紀雄）。

行田市須加 ◇当方、奈良県在住ですが、7月19日、移動途中に田んぼでコウノトリを1羽見かけた。足輪が付いていたので放鳥された子だと思えます（田淵有要）。

蓮田市駒崎 N36. 0131 E139. 6209 ◇7月21日、朝の散歩でハヤブサがドバトを捕食するシーンに遭遇した。初めの頃、ドバトの数は30羽程度だったが、どんどん群れが大きくなってきて、今は100羽以上になった。これもハヤブサの影響だろうか？ ハヤブサは暫くこの場所を採餌場にする様な感じだ（関口明宏）。

久喜市菖蒲町 ◇7月23日、午前6時15分前後、柴山枝郷と同市小林の栢間沼周辺で白いサギ44羽、110羽、77羽の計231羽前後。その内、アマサギ1羽。他は、ダイサギ、チュウサギ、コサギ 識別できず。短時間に

これだけの数は初めての体験（小貫正徳）。

川越市下久戸 (53396473) ◇7月30日、川越東高校周辺でコチドリ30羽土、イカルチドリ1羽、タカブシギ1羽（小林みどり）。

行田市須加 (54392319) ◇8月2日、コチドリ5羽十、ムナグロ2羽（小林みどり）。

川越市通称南古谷地区 (53396473) ◇8月6日午前10時～11時、水の入った休耕田でタカブシギ1羽、草をついばんだりして忙しく動き回っていた。コチドリ7羽程が鳴きながら飛んでいた（今村富士子）。

さいたま市岩槻区柏崎 ◇8月7日昼頃、柏崎小学校に向かう道でサシバが「キンミー」という声を連発しながら、頭上を何度も飛んだ。その後、ローソンの上空で3羽になり、上昇して行った（田村 豊）。

川崎市後谷公園調整池 ◇8月8日午前5時20分（台風の前日）、アオサギ5羽、コサギ5羽、ダイサギ14羽、チュウサギ36羽（小貫正徳）。

川崎市舎人新田調整池 ◇8月10日午前5時30分、ゴイサギ成鳥6羽、幼鳥26羽、コサギ2羽（小貫正徳）。

鴻巣市大間一丁目 ◇8月12日午前7時頃、上空をショウドウツバメの群れが渡っていた。5分ほど見ていたが、雲の中から湧き出るように姿を現しては、三々五々、荒川の河川敷の方へ流れて行った。今季初認。暑い毎日だが、立秋を過ぎるとやはり秋の気配が漂う（榎本秀和・みち子）。

川越市通称南古谷地区 (53396473) ◇8月18日午前10時40分、遠くに2つ大きな群れが現れ、1つの群れが上空を旋回、何度か近くに。声も聞こえ、胸の黒いのも確認。ムナグロです。100羽位だった。降りることなく、いなくなってしまう。水の入った休耕田でコチドリ5羽（今村富士子）。

表紙の写真

チドリ目シギ科クサシギ属アオアシシギ

2017年10月、伊佐沼で出会ったアオアシシギ。ザリガニか何かをゲット。

小島 實（鳩山町）



行事案内



ノビタキ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月7日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、北里大学メディカルセンター行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、大畑、岡安、近藤、柴田、千葉、飛田、内藤、永野、村上、吉原(早)

見どころ：秋の渡り真っ盛り。林には小鳥、上空には猛禽類。高尾の池にオシドリ!?

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月7日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：大井、伊藤、須崎、高崎、手塚、野口、藤田、若林

見どころ：10月 は秋の渡りの時期、南へ向かう途中のノビタキに会いに来てください。また、昨年は好物の毛虫を食べるツツドリが枝から枝へ飛び回っていました。そして探鳥会終盤には「アー、アオー、アオー」と囀る緑黄色のアオバト!!

ご注意：①コースの途中にトイレはありません。②強風等天候によってはコースを変更します。

埼玉 Young 探鳥会 & バードスケッチ会 @東京港野鳥公園 (要予約)

期日：10月13日(土)

詳細は9月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、大畑、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：ノビタキを探して草原を歩き野鳥の森まで歩きます。猛禽も飛ぶでしょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月20日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線 柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武線 新越谷 7:19→春日部 7:36→南栗橋で新栃木行きに乗り換え柳生 8:07 着。または JR 宇都宮線 大宮 7:03→栗橋 7:38 着、東武線新栃木行き 7:57 発に乗り換え柳生 8:07 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、入山、植平、佐藤、進士、野口、山田

見どころ：谷中湖へ戻ってきたカモ達や、チュウヒやミサゴなどの猛禽を探します。ピ

ギナーの方、大歓迎です。昼食持参が便利です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月20日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月21日(日)
集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから8:23発東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館
担当：須崎、青木、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、新部、畠山
見どころ：秋の渡りも終盤。10月は「ノビタキ探鳥会」です。昨年は雨の為中止となりましたが、その前の2年は観察できています。ノビタキを求めて芝川沿いを歩きます。木陰等はありませんので、紫外線対策を忘れずに。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月27日(土)
集合：午前8時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。
交通：JR 行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り 7:55 発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。
担当：相原(修)、相原(友)、大坂、岡安、竹山、内藤、村上、茂木
見どころ：猛暑の夏が終わり待望の冬鳥の季節となりました。古墳公園とその周辺でジョウビタキを探します。オオタカが観られたら嬉しいな。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月27日(土)～28日(日)
詳細は9月号をご覧ください。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：10月28日(日)
集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園

管理棟前。
交通：東武伊勢崎線 せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き 8:48 発で「まつぶし緑の丘公園」下車。
担当：橋口、石塚(敬)、植平、佐藤、佐野、進士、山部
見どころ：公園の池にカモ7種がそろっていることでしょう。古利根川では、いつものイカルチドリ、コチドリ、イソシギが待っています。

お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

栃木県奥日光・千手ヶ浜探鳥会(要予約)

期日：11月23日(金・祝)
集合：午前6時45分、東武野田線 岩槻駅東口。
解散：午後7時30分ころ、集合場所で。
交通：往復貸切バス(中型)を利用。
担当：入山、浅見(徹)、近藤、佐野
費用：7,500円(貸切バス代、シャトルバス代等) 過不足の場合は当日清算。
定員：25名(応募多数の場合、先着順) 最少催行人数20名。
申し込み：往復はがきに住所、氏名、性別、電話番号を明記して入山博() まで。10月1日消印より受付開始。
見どころ：久しぶりにオオワシを初冬の奥日光・千手ヶ浜に探しに行きます。運が良ければ、赤い鳥が見られるかも？
その他：昼食持参、雨天決行。防寒の対策をお願いします。



中禅寺湖菖蒲ヶ浜の上空を飛翔するオオワシ
2008年11月当会の探鳥会で(撮影：浅見 徹)



行事報告

3月31日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 30名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ コチドリ トビ オオタカ コゲラ アオゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (30種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 例年になく早くも桜が散り始める中、トトロの森付近ではシロハラやツグミ、上空にツバメ、湖岸にはタヒバリとコチドリ。カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの夏羽も観察できて、冬から夏への交差点を体感出来た。「おおかたの水鳥去りし湖にコチドリの居て 時季は移ろう」 (石光 章)

4月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 58名 天気: 晴

コジュケイ キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ バン オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ カワラヒワ ベニマシコ シメ アオジ (31種) (番外: ガビチョウ) 4月は恒例のお花見探鳥会。エドヒガンは散った後。蒲ザクラ、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラが満開。人出は意外と少なく、一般の人々への迷惑はそれ程掛けずに済んだのでは。みんなで一緒に観察できたのは北口の地面で採餌中のアオジを遠くから望遠鏡で。南口近くで草地をゆっくり歩くキジ♂。桜並木では満開の桜の枝で囀るウグイス、東屋の近くでまだ残っていたジョウビタキ♀。いつもより長距離を速足で歩き、お疲れ様。 (吉原俊雄)

4月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 47名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ コサギ バン オオバン トビ ツミ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (31種) (番外: ドバト) 集合場所の美しいしだれ桜と、トビとツミのバトルで幸先良くスタートしたが、そのあとサッパリ。花はあちらこちら満開だが、どこを歩いても鳥影がうすい。ようやく芝川沿いで出ていると情報があつたイソヒヨドリが姿を見せてくれて (民家園探鳥会で初)、良かった〜。皆さん、お疲れ様でした。 (伊藤芳晴)

4月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 39名 天気: 晴

カルガモ キジバト カワウ コゲラ ハヤブサ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ アオジ (26種) (番外: ガビチョウ) 皆さんの印象に残ったのはイカルかな? アトリかな? それとも蒸気機関車だったりして……。レンジャクははずしたけど、それなりに楽しい探鳥会になったのではないかな。ツマキチョウやヨツボシトンボでも盛り上がる。(榎本秀和)

4月8日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 30名 天気: 晴

キジ キジバト トビ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ カワラヒワ マヒワ ホオジロ アオジ (22種) 暖かい日が続き桜の花も寂しくなる中、夏鳥に期待してスタート。ハナビシソウの丘でキジのホロ打ち、ウグイスのさえずり、桜に集まるヒヨドリを観察。木々萌え行く春風の高木上にマヒワ数羽を皆で仰ぎ見る。観察数は少ないが十分楽しめた。皆さんお疲れ様でした。 (井上幹男)

4月15日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 12名 天気: 曇

コジュケイ キジ カルガモ キジバト アオサギ ダイサギ タシギ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ アオジ (26種) (番外：ドバト) シジュウカラが盛んに囀るなか、ツグミやシロハラの声が聞こえ、樹冠には渡り途中のシメの群れがとりつき、田んぼではエメラルドグリーンの目先と蓑羽が美しいチュウダイサギ夏羽1羽、急に飛び立つタシギ4羽、田起こし田ではチョコチョコ動く夏羽のタヒバリ1羽などが印象に残った。雨に洗われた若葉がみずみずしい雨上りの雑木林を中心に歩いた。(石川敏男)

4月15日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。

(小林みどり)

4月21日(土) さいたま市 秋ヶ瀬公園 Young

参加：49名 天気：晴

コジュケイ キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン トビ コゲラ アオゲラ ハヤブサ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ ビンズイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (36種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 夏日のような陽気の中で、賑やかな探鳥会となった。田園地帯ではヒバリの賑やかな声が響き、セッカとオオヨシキリの声も聞こえた。子供の森では残念ながらキビタキ・オオルリには出会えなかったが、アトリの群れやシメをじっくり見る事ができた。解散後はお茶会で鳥仲間の輪が広がった。(廣田純平)

4月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：7名

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、藤掛保司、三ツ矢正安

4月22日(日) 東京都 葛西臨海公園

参加：54名 天気：快晴

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ コガモ スズガモ カイツブリ カンムリカイツブリ キ

ジバト カワウ アオサギ ダイサギ チュウサギ コサギ クイナ ヒクイナ バン オオバン ダイゼン コチドリ ミヤコドリ チュウシャクシギ ダイシャクシギ アオアシシギ イソシギ ユリカモメ ウミネコ シロカモメ セグロカモメ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (42種) (番外：ドバト) 女子探鳥会だけではという声があり、一般探鳥会で開催したところ、大盛況！ 潮の状態を考えて野鳥園から回った。ウズラは残念だったが、クイナやアオアシシギ、チュウシャクシギが間近で見られて大正解だった。その後、西なぎさで東京支部の方々と合流し、ミヤコドリなどを堪能した。お手伝いいただいた東京支部のHリーダーに感謝。(菱沼一充)

4月25日(水) さいたま市 秋ヶ瀬公園

雨のため中止。

(小林みどり)

4月29日(日) シギ・チドリ類県内調査

ボランティア：20名

相原修一、相原友江、石井勝秋、石井智、石塚敬二郎、今村富士子、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、篠葉利夫、白石琢也、藤澤洋子、藤田敏恵、村越百合子、古戸明美、山崎雅夫、山下紀、山下康子、吉原俊雄、吉原早苗

4月29日(日) 栃木県 小倉山森林公園

参加：59名 天気：晴

コジュケイ キジバト カワウ アマツバメ イソシギ トビ コゲラ チョウゲンボウ サンショウクイ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ エゾムシクイ センダイムシクイ メジロ ムクドリ コムクドリ カワガラス コサメビタキ キビタキ オオルリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ (32種) (番外：ドバト、ガビチョウ) この探鳥会始まって以来の不調。暑くて葉の茂りが例年より早い。声はすれども姿は見えず。オオルリをまだ見たことが無いという方に申し訳ない気持ちだった。観察鳥種にはオオルリ・キビタキ・サンショウクイとあるが、実際に見られた方は余

りいなかったようだ。

(青木正俊)

5月3日(木) 幸手市 宇和田公園

参加:14名 天気:曇

キジ カルガモ キジバト カワウ ゴイサギ
アオサギ ダイサギ ムナグロ コチドリ コゲ
ラ チョウゲンボウ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ
ヒヨドリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキ
レイ セグロセキレイ カワラヒワ (24種) (番
外:ドバト) 集合時間までに雨はすっかりあが
り、開催を決定。まずは公園周辺でシラコバトを
探す、残念ながら姿は見当たらない。その後は
足元の悪い江戸川行きは省略して水田地帯へ出る
と、今年もムナグロがいてくれた!じっくり見て
みると、なんとその数は100羽超。シラコバトの代
わりを務めてくれた。(佐野和宏)

5月5日(土祝) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加:59名 天気:晴

カルガモ コガモ スズガモ カイツブリ カン
ムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ
ダイサギ ダイゼン メダイチドリ チュウシャ
クシギ キアシシギ トウネン ハマシギ コア
ジサシ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ
メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキ
レイ カワラヒワ (29種) (番外:ドバト) 潮が引
いて広がり始めた干潟にシギ・チドリ類が海から
やってくる。種類と数も増して、ハマシギの乱舞
も見られた。チュウシャクシギの鳴き声は印象的
だった。(杉本秀樹)

5月12日(土) 長野県 中軽井沢 Ladies'

参加:24名 天気:晴

キジ カルガモ キジバト アオサギ トビ コ
ゲラ アカゲラ アオゲラ サンショウクイ モ
ズ ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ
シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ
ウグイス ヤブサメ エナガ センダイムシクイ
メジロ ゴジュウカラ ミソサザイ ムクドリ
コムクドリ カワガラス コルリ キビタキ オ
オルリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カ
ワラヒワ イカル ホオジロ (37種) 晴天に恵
まれ、出発早々にコムクドリが出現。長倉神社の

手前で上空を飛ぶイワツバメやツバメを観察。神
社内でアカゲラが電灯のカバーをカンカンたた
っているのを皆で楽しんだ。別荘地ではアオゲラ、
オオルリ♀、カラ類等々。トンボの湯の前でコ
ルリの声を聞きながらお弁当。じっとしているカ
ワガラスを見て橋を渡り、野鳥の森の入口でイ
カルを見つけて終了。全体としてキビタキが多
かった。

(吉原早苗)

5月12日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加:29名 天気:晴

キジ カルガモ キジバト アオサギ バン オ
オタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ オ
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュ
ウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキ
リ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒ
ワ ホオジロ (22種) (番外:ドバト) オープ
ニングのさなか、リーダーの1名が空にオオタ
カを発見。期待が高まった。田圃のチュウサ
ギ3羽を皆で識別。園内の池のカワセミに歓
声が上がった。ヨシ原でオオヨシキリが鳴
くが姿が見えない。探すと声がしていたキ
ジがでた。遠くの建物の屋根に居るチュウ
ゲンボウを皆で確認して、探鳥会を終えた。
(長嶋宏之)

5月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加:30名 天気:曇時々雨

コジュケイ キジ キジバト コゲラ モズ
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウ
カラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エ
ナガ メジロ ムクドリ キビタキ スズメ
ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (20種)
(番外:ドバト、ガビチョウ) スタートと
同時に雨が降ってきた。電線のハクセキ
レイ、木立で互いに羽繕いするキジバト
のカップル、飛び回るツバメが見られ、
コジュケイとキジの音が聞こえる。雨の
せいもあるのか、森に入っても鳥がほと
んど現れず、やや低調な探鳥会だった。
(新井 巖)

5月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:14名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海
老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、
志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、三ツ矢正安、吉
原早苗、吉原俊雄



●川越市内で普及部会開催

7月 22 日(日)普及部会を川越市内のウエスタ川越で開催。出席者 18 名。探鳥会運営や人材確保、会員増加策などについて意見交換を行い、部会終了後、川越駅近くの居酒屋に場所を移した懇親会には、15 名が参加しました。

●埼玉県カワウ対策協議会に出席

7月 25 日(水)さいたま市内の埼玉教育会館で開催された平成 30 年度第 1 回埼玉県カワウ対策協議会に、当会幹事で県鳥獣保護管理員の小荷田行男が出席。森林公園山田大沼のカワウが 2018 年度繁殖期に営巣しなかったのはアライグマの影響によると推定されるなどのことなどが報告されました。

●埼玉県狩猟免許更新講習で講演

7月 31 日(火)蓮田市文化会館「ハストピア」で開催された同講習で、当会副代表で県鳥獣保護管理員の小林みどり、鳥獣の保護及び管理の概要、外来種対策、錯誤捕獲の防止、鉛弾の使用による汚染の防止などについて講演しました。

●(公財)山階鳥類研究所からのお知らせ

第 28 回鳥学講座「スズメ研究のスズメ」
講師：三上修(北海道教育大学函館校准教授)
日時：2018 年 11 月 3 日(土・祝)午後 13 時 30 分～15 時 00 分
場所：アビスタ(我孫子市生涯学習センター) 1F ホール(定員：120 名)
参加費：無料 事前申込み不要 先着順
問い合わせ：同研究所広報担当 04-7182-1101

●ごめんなさいコーナー

前号 12 ページ「(公財)山階鳥類研究所からのお知らせ」中、「山階義鷹賞」は、「山階芳鷹賞」の誤りでした。

● 会員数は

9月 3 日現在 1,618 人です。

活動と予定

● 8 月の活動

8月 11 日(土) 9 月号校正作業(海老原教子、海老原美夫、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山部直喜)
8月 19 日(日) 司会：近藤龍哉、各部の報告・関東ブロック協議会出席者の変更・行事予定変更など)。
8月 20 日(月) 『野鳥』誌と同封送しない会員向け、『しらこぼと』9月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

●10 月の予定

10月 6 日(土) 普及部会。編集部会。
10月 13 日(土) 11 月号校正(午後 4 時から)。
10月 20 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
10月 21 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

これまでは、窓を開けて風を通せば扇風機を使うことで何とか寝られた。しかし、この夏の異常な暑さで熱中症が心配になってきた。自宅を事故物件にするわけにもいかないので、寝室にエアコンを導入。微小ではあっても間違いなく気温上昇につながる。命を守る行為が地球温暖化に拍車をかける。(森本)

しらこぼと 2018 年 10 月号(第 415 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社